

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2772202186
法人名	社会福祉法人聖綾福祉会
事業所名	グループホームせいりょう巽北
訪問調査日	平成 21 年 2 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 27 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772202186
法人名	社会福祉法人 聖綾福祉会
事業所名	グループホーム せいりょう巽北
所在地	大阪市生野区巽北3丁目4番13号 (電話) 06-4306-9000

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年2月28日	評価確定日	平成21年3月27日

## 【情報提供票より】(21年1月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 17.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	82,750 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円) 無○			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無○	
食材料費	朝食	315 円	昼食	525 円
	夕食	735 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	9 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	66 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たけだクリニック、北原クリニック、いぬき眼科、金村歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体である社会福祉法人聖綾会は高齢者福祉に寄与するため、平成7年に有料老人ホームを各地に建設することから設立された。従って「グループホームせいりょう巽北」の設立は平成18年と、まだ日は浅いが介護の経験は豊富である。1階には併設のデイサービスと事務所があり、2・3階がユニット毎のホームになっている。ホームの玄関にはプランターに季節の花が植えられ来る人を暖かく出迎えてくれる。リビングルームには、テーブルに季節の草花が生けられたり壁には利用者の毛筆で書かれた短歌が掲げられるなど生活感季節感に溢れている。このホームの大きな特色の一つに入浴があげられる。毎日入浴可能であるだけでなく、週の内2日は温泉を楽しむことが出来るのである。系列の施設から温泉の湯が運ばれてくる。至福の一時が週に2日も味わえるのである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で出された「週3回の入浴」は、温泉入浴も含めて毎日入浴可能で改善されている。理念は現在法人の理念をそのまま掲げられているが、現在地域密着型サービスとしての役割を担える内容になるように検討中である。出入口は建物の構造上危険防止のため施錠されているが、職員の見守りの可能な範囲内での鍵の掛けないケアの取り組みを検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、項目毎に話し合いながらまとめている。また、外部評価の結果を踏まえた改善計画も副施設長を中心にして立てるようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター職員、町会長、利用者、家族会、管理者、職員の参加で半年に一度、運営推進会議が開催されている。会議では、夏祭りのこと、食事に関することや自己評価、外部評価などについて質問、意見、要望を受け双方向的な話し合いがされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所の玄関に意見箱を設置し、家族等が自由に意見を表わせるようにしている。その他、家族会を設け毎月開催し、何でも話し合える機会を多く作っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会、老人会の集会には積極的に参加し地域の人々との積極的な交流に努めている。地域の盆踊りを事業所の呼びかけで誘致し事業所の駐車場を利用して開催するなど地域との関わりは深い。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「私たちは、常に安全で清潔、イキイキした生活を提供すると共にご家族の気持ちで親身になってお世話を致します」と掲げ、家庭的な環境の維持を謳っているが新しい地域密着型サービスの理念に沿った、事業所独自の理念が出来ていない。	○	家庭的な環境だけでなく、地域の中でそのひとらしく生活することを支えるケアが求められている。地域の中で果たすべき役割を反映した事業所独自の理念が欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の職員朝礼で理念を唱和しているが、ミーティング時にも理念に触れ確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会の集会には積極的に参加し地域の人々との積極的な交流に努めている。地域の盆踊りを事業所の呼びかけで誘致し事業所の駐車場を利用して開催するなど地域との関わりは深い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、項目毎に話し合いながらまとめている。また、外部評価の結果を踏まえた改善計画も副施設長を中心にして立てるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、町会長、利用者、家族会、管理者、職員の参加で半年に一度開催されている。会議では、夏祭りのこと、食事に関することや自己評価、外部評価などについて質問、意見、要望を受け双方向的な話し合いがされているが開催数が少ない。	○	町会長など参加者の調整がなかなか付かず現在は半年に一度の開催になっている。地域の人々により理解をもらい、サービスの質の向上を目指すために2ヶ月に一度の開催が出来るよう努めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の高齢福祉課や地域包括支援センターへ出向き、事業所の実情やケアサービスの取り組み方について折に触れ相談し、ともにサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、その都度利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。その他、毎月定期的に会計報告なども行っている。事業所のブログも作成、一週間に一度の更新で利用者の暮らしぶりが判るようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関に意見箱を設置し、家族等が自由に意見を表わせるようにしている。その他、家族会を設け毎月開催し、何でも話し合える機会を多く作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職によるダメージを出来るだけ少なくするよう、ユニットの担当職員を固定したり、引き継ぎに際してはマニュアルを作るなどして配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は3ヶ月以内にマニュアルに基づいて実施している。年間計画をたてて月々の法人内研修をしているほか、段階に応じて外部研修も随時受けられる機会が設けられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が積極的にネットワーク作りにあたり、生野区内や東大阪市の同業者と月に1回、災害、認知症などに対する勉強会を相互訪問をしながら行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等が事業所を見学に来たり、併設のデイケアサービスを受けながら、徐々に場の雰囲気に馴染みながら利用するように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの得意分野、編み物、短歌、洗い物、あるいは書道などで力を発揮、掲示物を書いてもらうなど、共に支え合う関係作りを築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、どこでどのように暮らしたいか、誰に会いたいかなどを日々の関わりの中で行動や表情から把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等とは日頃の関わりの中で思いや意見を聞くほか、関係者からも気づき、意見、要望を聞き出しモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは終了する前であっても、利用者の状態が変化した際や家族等の要望に応じて必要な関係者と話し合いながら見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の状況等、その都度必要に応じて通院の移送サービスなどの要望に臨機応変に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、内科医や歯科医が定期的に往診しているが、利用前のかかりつけ医の医療もDr同士の連携を保ちながら受診出来るよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設のデイサービスには看護師はいるが、現在のところ医療連携体制が整っていない。したがって、重度化に伴って医療措置が必要となった場合は特養あるいは医療施設に移ってもらうよう関係者で話し合い方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を研修を重ねながら実践している。それは、食事介助や言葉掛けにも良く現れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所に一応の流れはあるが、利用者一人ひとりの生活のリズムの中から本人がしたいこと、散歩や編み物・書道など趣味の時間などを大切に希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託されているが、定期的に業者・職員・利用者・家族等と献立内容など話し合い、それぞれの要望を取り入れている。また、職員と利用者は同じテーブルで一緒に和やかに食事をしながらさり気ない介助が見られた。後片づけも利用者が職員とすすんで楽しくしている姿が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回は併設のデイサービスセンターに運ばれてくる温泉にその他は事業所の浴室でと、毎日一人ひとりの希望に合わせて入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活を共にして行く中で、利用者一人ひとりに合った役割、楽しみごと、裁縫・編み物、書道・園芸など、生活歴を活かした気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望にそって、近くの公園や馴染みの場所へ出かけたり、買い物に出かけたりして外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各階の共用空間は自由に活動出来るようになっているが、出入り口はすぐ側に非階段があり危険と隣り合わせになっているためやむを得ずではあるが施錠されている。	○	危険防止のためやむを得ず各階の出入り口が施錠されている。建物の構造上難しいところがあると思うが、職員の見守りの可能な範囲で鍵をかけないケアに取り組むようにして欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署・地域の人々の協力を得ながら年2回、事業所独自で年2回、設備点検に年2回と避難訓練や避難経路の確認などを定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分量を毎日チェックし、全体を通して栄養バランスが取れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関廻りにはプランターに季節の花が植えられ訪れる人を暖かく迎えてくれる。また、リビングルームには季節に合わせて雛人形を飾ったり、テーブルに草花を生けたり、壁には利用者の毛筆で書かれた短歌が掲げられているなど、生活感季節感に溢れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室である利用者の生活空間は、クローゼットとエアコン以外はすべて利用者の馴染みの家具や調度品、身の回りのもので占められ、居心地の良い落ち着いた雰囲気になっている。		